

保護者各位

綾川町立昭和小学校

校長 岡内利文

辞書引き学習について

身の周りのものごとや教科書の言葉を国語辞典で調べる経験を積み重ねることは、自ら学ぼうとする意欲を高めるとともに、学習の支えとなる豊かな語彙力を育てる上で大変重要です。そこで、本校でも今年度「辞書引き学習」を取り入れ、学校生活のいろいろなところで国語辞典を活用しようと考えています。通常、国語辞典の使い方を学ぶのは3年生からですが、「辞書引き学習」を実践している立命館小学校では1年生から使わせています。(本校では、1年生はひらがなを学習し、学校生活に慣れた2学期中旬から使う予定です。)

つきましては保護者の皆様にご理解・ご協力をいただき、児童一人に1冊の国語辞典を準備していただきたいのです。しかし、決して強制するものではありません。児童一人一人が自分の辞書を持ち、いつも身近において調べた言葉に線を引いたり、付箋を貼ったりすることにより、どんどん自発的に学ぶ力が育っていきます。準備できない場合は学校の国語辞典を利用し、その都度元の位置に返すようにします。

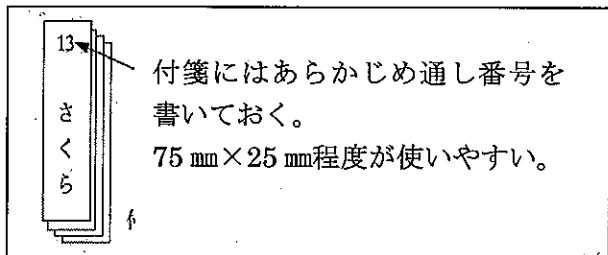
1 国語辞典の活用の例

- ・身の周りのものごとを調べる。 ——— 朝の読書で
- ・テーマをもとに調べる。 ——— ドリルの時間に
- ・教科書の言葉を調べる。 ——— 授業で、宿題や自主学習で

家庭でも身近な言葉で分からないものがあれば、どんどん辞書を引かせてみましょう。例えば、電気製品、家具、食品、ニュースに出てきた言葉などを「これは何の事だろう?」「何からできているか調べてみようか。」などと言って調べさせます。辞書を引く楽しさを知っていくと好奇心旺盛な子どもに育ちます。

★ 使い方

- ・ケースやカバーは、はずしておく。
- ① わからない言葉を国語辞典で調べる。
- ② 見つけたら、赤えんぴつで印をつける。
- ③ 付箋に番号と言葉を書いて貼る。



④ はじめは学校で準備しますが、必要量は個人によって異なりますので不足分は各自で準備してください。

2 国語辞典の選び方

国語辞典は持ち運びが大変なので、家庭用と学校用の2冊があると望ましいです。1冊は、今家庭にある物を利用し、もう1冊は子どもに合った物を購入する事をおすすめします。親子で相談してよいものを選び、購入するのが一番ベストです。

- ・ 1万5千語以上のもの (調べようと思った言葉が掲載されていないと子どもの意欲がそがれる)
- ・ 総ルビ付きのもの (全ての漢字の横にふりがながふってある)
- ・ 発行年数が新しいもの (辞書の巻末部分を見て)

☆ 学習参観の日に、体育館の入口近くに国語辞典の見本と注文用紙をおいておきますのでご覧下さい。注文希望の方は、注文用紙にお金を添えて担任に渡してください。